



# インストール要件

この章では、次のプラットフォームに Crosswork Data Gateway をインストールするための一般的なガイドラインと最小要件について説明します。

- VMware
- Cisco Cloud Services Platform (Cisco CSP)
- OpenStack プラットフォーム。

## Crosswork Data Gateway インストール前のチェックリスト

インストール前のチェックリストは、次の場合に役立ちます。

- すべてのシステム要件が満たされており、必要なすべてのポートが有効になっていることを確認する。
- インストールを実行するために必要な情報を収集する。

Crosswork Data Gateway のインストールを開始する前に、インストール前のチェックリストを完成させてください。

1. ホストサーバーがリソース要件を満たしていることを確認します（「[VM 要件 \(2 ページ\)](#)」を参照）。
  2. Crosswork Data Gateway の動作に必要なポートを有効にします（「[使用ポート \(4 ページ\)](#)」を参照）。
  3. ご使用の環境でプロキシサーバーが必要かどうかを把握します [プロキシサーバの要件 \(5 ページ\)](#) を参照してください。
- [VM 要件 \(2 ページ\)](#)
  - [使用ポート \(4 ページ\)](#)
  - [プロキシサーバの要件 \(5 ページ\)](#)

## VM 要件

次の表は、サポートされている仮想プラットフォームのソフトウェア要件と、Crosswork Data Gateway をサポートするために必要な物理要件およびネットワークリソースの要件を示しています。

特に明記されていない限り、Crosswork Data Gateway をインストールするためのリソース要件は、すべてのデータセンターで同じです。

表 1: Cisco Crosswork Data Gateway VM の要件

要件	説明
データセンター	VMware <ul style="list-style-type: none"> <li>VMware vCenter 7.0、ESXi 7.0 をホストにインストール済みであること</li> <li>VMware vCenter Server 6.7 (Update 3g 以降)、ESXi 6.7 Update 1 をホストにインストール済みであること</li> </ul> Cisco CSP <ul style="list-style-type: none"> <li>Cisco CSP 2.8.0.276 以降</li> </ul> 許可されたハードウェア : CSP-2100、CSP-2100-UCSD、CSP-2100-X1、CSP-2100-X2、CSP-5200、CSP-5216、CSP-5228、CSP-5400、CSP-5436、CSP-5444、CSP-5456 OpenStack <ul style="list-style-type: none"> <li>OpenStack OSP16</li> </ul>
メモリ	32 GB
ディスク容量	74 GB
vCPU	8

要件	説明			
インターフェイス	最小値：1 最大値：3  Crosswork Data Gateway は、次の組み合わせに従って、1つ、2つ、または3つのインターフェイスのいずれかで展開できます。			
	NIC の数	vNIC0	vNIC1	vNIC2
	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理トラフィック</li> <li>制御/データトラフィック</li> <li>デバイスアクセストラフィック</li> </ul>	—	—
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理トラフィック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御/データトラフィック</li> <li>デバイスアクセストラフィック</li> </ul>	—
	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>管理トラフィック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>制御/データトラフィック</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デバイスアクセストラフィック</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>管理トラフィック：インタラクティブコンソールにアクセスし、Crosswork Data Gateway VM をトラブルシューティングする場合。</li> <li>制御/データトラフィック：Crosswork Cloud から収集ジョブの設定を受信し、収集したデータを Crosswork Cloud に転送します。</li> <li>デバイスアクセストラフィック：デバイス管理およびテレメトリデータの場合。</li> </ul>				
IP アドレス	使用するインターフェイスの数に基づいて、1つ、2つ、3つの IPv4 または IPv6 アドレス。  (注) Crosswork はデュアルスタック構成をサポートしていません。したがって、環境のアドレスはすべて IPv4 または IPv6 のいずれかである必要があります。			

要件	説明
NTP サーバ	<p>使用する NTP サーバの IPv4 または IPv6 アドレスまたはホスト名。複数の NTP サーバを入力する場合は、それぞれをスペースで区切ります。これらは、ネットワーク全体でデバイス、クライアント、およびサーバを同期するために使用する NTP サーバと同じでなければなりません。</p> <p>(注) NTP IP アドレスまたはホスト名がネットワーク上で到達可能であることを確認します。到達可能でない場合、インストールは失敗します。</p> <p>Cisco Crosswork Data Gateway ホストと仮想マシンは NTP サーバに同期する必要があります。同期しないと、Crosswork Cloud への登録を完了できない場合があります。</p>
NTPv4 認証	強力な暗号認証に使用する NTPv4 認証プロセス。
DNS サーバー	使用する DNS サーバーの IPv4 または IPv6 アドレス。複数の DNS サーバを入力する場合は、それぞれをスペースで区切ります。これらは、ネットワーク全体でホスト名を解決するために使用する DNS サーバと同じである必要があります。
DNS 検索ドメイン	DNS サーバで使用する検索ドメイン (たとえば、cisco.com)。検索ドメインは 1 つのみ設定できます。
Syslog サーバーのアドレス (Syslog Server Address)	<p>管理インターフェイスからアクセス可能な Syslog サーバーの IPv4 または IPv6 アドレス。</p> <p>Syslog サーバーの設定方法の詳細については、「表 1」を参照してください。</p>
Auditd サーバアドレス (Auditd Server Address)	<p>オプションの Auditd サーバーのホスト名、IPv4、または IPv6 アドレス。</p> <p>Auditd サーバアドレスの設定方法の詳細については、「表 1」を参照してください。</p>

## 使用ポート

次の表に、Crosswork Data Gateway が正常に動作するために必要なポートの最小セットを示します。



(注) これは、基本的な Crosswork Data Gateway 機能のみを有効にするためのセットです。Crosswork Data Gateway で実行されているアプリケーションに応じて、追加のポートを有効にできます。

表 2: 管理トラフィック用に開くポート

ポート	プロトコル (Protocol)	使用対象	方向
22	TCP	SSH サーバ	着信
22	TCP	SCP クライアント (注) SCP ポートを設定 できます。	発信
123	UDP	NTP クライアント	発信
53	UDP	DNS Client	発信
443	TCP	Crosswork コントローラ	発信

表 3: 制御/データトラフィック用に開くポート

ポート	プロトコル (Protocol)	使用対象	方向
179	TCP	BGP	発信
179	TCP	BGP	着信
161	UDP	SNMP	発信
2055	UDP	NetFlow	着信

## プロキシサーバの要件

多くの実稼働環境では、パブリック インターネット サイトへの直接接続を許可しません。パブリック インターネット 上の URL にアクセスするために HTTP または HTTPS プロキシが必要な環境の場合は、Cisco Crosswork Data Gateway が Crosswork Cloud サービスに正しく接続できるようにプロキシサーバを設定する必要があります。プロキシサーバが必要かどうかについては、ネットワーク管理者に問い合わせてください。

プロキシサーバが必要な場合、Crosswork Data Gateway のプロキシサーバの詳細は、次のいずれかの方法で設定します。

- (推奨) インストール時にプロキシサーバのクレデンシャルを入力する。「[Cisco Crosswork データゲートウェイ \(Cisco Crosswork Data Gateway\) 導入パラメータとシナリオ](#)」の「[コントローラとプロキシの設定](#)」を参照してください。

- インストール後、Crosswork Data Gateway のインタラクティブコンソールから設定する。  
[制御プロキシの設定](#)を参照してください

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。